

プロバスケット「東京エクセレンス」GM辻秀一氏

W杯優勝を目指す日本代表に「理念を」。スポーツドクターで、プロバスケットボールチーム「東京エクセレンス」GMの辻秀一氏は、日本代表の個の強さを認めながらも「成績目標以外に、共有できる何かが必要」と話した。東日本大震災後「日本を元気に」を合言葉にW杯初優勝を果たした「なでしこジャパン」のように、日本中が共有できる理念を支持すれば、W杯での優勝も不可能ではないと期待した。「取材・構成」萩島弘一



「なでしこジャパン」を合言葉にW杯初優勝を果たした「なでしこジャパン」のように、日本中が共有できる理念を支持すれば、W杯での優勝も不可能ではないと期待した。「取材・構成」萩島弘一

個は上がってる

ザックジャパン、いいですね。W杯が楽しみます。今の選手はすごいですよ。多くの選手が欧州に 진출して、個の強さは確実に上がっている。バスケットで、NBAで活躍する選手はいない。ところが、サッカーは欧州のトップレベルでプレーする選手だけでチームでできるほどですから、個は強い。ただ、問題なのは個だけでは1人で1日よりも、



必要なのは「理念の共有」

目標が高いのは素晴らしい、でもなぜ「W杯優勝」なのか

本日は「W杯優勝」と言い続けているけれど、それをチームで共有しているように見えない。目標を高く設定することは素晴らしいけれど、みんなが同じ思いでやらないと「優勝」の言葉だけが上滑りしてしまう。チームの目標を、全員で共有することで、



辻秀一氏（つじ・しゅいち）

◆辻秀一（つじ・しゅいち）1961年（昭和36）5月23日、東京都生まれ。栄光学園から北海道大医学部を卒業し、慶大医学部内科一慶大スポーツ医学研究センター。スポーツ心理学を日常生活に応用し、パフォーマンスを最大にする「辻秀一」をコンセプトに、自己啓発書「なでしこ」を著し、東京に「なでしこ」を創設。現在は「なでしこ」のGMとして活躍中。

◆辻秀一のごだわりシャバス◆			
前田(磐田)	岡崎(マイナ)	長谷部(コルパルク)	酒井宏(ルバー)
清武(コルパルク)	香川(マテスター)	遠藤(G大阪)	今野(コルパルク)
長友(イナフ)	今野(G大阪)	森(東京)	酒井宏(ルバー)
スーパーサブ	本田(CSKA)	権田(東京)	4-4-2

「なでしこ」は東日本大震災の後「日本を元気に」を合言葉に、W杯初優勝しました。「日本を」が理念で、それを表現するための手段が優勝だった。これは4人だけ、ロンドン五輪の銀メダル「(北島) 康介さんを手ぶらで帰さない」を実現するためにメドレーリレーの銀メダルを獲得した。「何のため」は不可欠な要素なんです。

必要なのは「理念の共有」

理念を持つことで、さらにチームはまとまる。「なぜ優勝を目指すのか」なのです。「なでしこ」は東日本大震災の後「日本を元気に」を合言葉に、W杯初優勝しました。「日本を」が理念で、それを表現するための手段が優勝だった。これは4人だけ、ロンドン五輪の銀メダル「(北島) 康介さんを手ぶらで帰さない」を実現するためにメドレーリレーの銀メダルを獲得した。「何のため」は不可欠な要素なんです。

だから、あえて本田は控えにしました。強烈な個性で、試合の流れを変えることも期待していますが、明るく、楽しんで、自然体で試合ができるメンバースタッフが「なぜ優勝したい」かの理念を共有できれば、世界の頂点に立つことも可能ではないと思っております。